

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年1月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1572400628		
法人名	株式会社 倉友土地		
事業所名	グループホーム大空		
所在地	新潟県南魚沼市目来田86-4 (電話) 025-778-2477		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	10月20日

【情報提供票より】(19年8月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17人
職員数	16人	常勤 11人、非常勤 5人、常勤換算 14.1人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階 建ての	1階 ~	2階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,520 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり	945 円		

### (4) 利用者の概要 (19年8月現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	10名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85歳	最低	54歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	あんベクリニック
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日中の職員を多めに配置し、利用者の自由な活動をできるだけ保障するよう心がけている。散歩は日常的に行なわれ、数人の利用者は安全な散歩コースに職員の付き添いなしで出かけている。利用者の希望を書いてもらう「望みかなえ札」を作り、その希望をかなえる努力をしている。急な個人的な買い物にも対応したり、近隣で利用者の興味を引きそうなイベントがあればすぐに出かけたりと、1日の生活も日課にとらわれず柔軟に対応している。食事に関しては、買い物から調理、片付けまで利用者に参加してもらっている。また、畑での野菜作りや裁縫など、利用者ができること、得意なことをやってもらい、生きがいにつなげている。設備面では、廊下や浴室などの手すりを増やしたり、電気スイッチの位置を変えたりと、利用者に合わせて細かな配慮が見られる。利用者と職員との日常的な何気ない会話が多く交わされ、笑い声や笑顔が多く、利用者職員が喜怒哀楽を共にしていることが伺えた。地域との交流や他のグループホームとの交流も進みつつあり、さらなる向上が期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の啓発については、理念等書いたものを地域に回覧してもらったり、地域の行事への参加やボランティアの訪問も増え啓発の機会としている。介護計画の見直しについては定期的に行なわれ、変化があれば随時の見直しも行なわれている。マニュアルは、感染症対策、事故防止等の見直しが行なわれた。定期健康診断の支援については家族への働きかけを行なっているところである。事故の報告と活用については、事故報告書に改善計画が記載されていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者とユニットのチーフで作成されていた。自己評価の意義を理解し、職員全員で取り組み、日常のケアの振り返りや見直しの機会とされることを望みたい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>隔月で運営推進会議を開催し、利用者、家族、地域包括支援センター職員、地域の区長、民生委員や隣家の方も出席している。討議内容については年間計画が立てられ、ホームの状況報告や外部評価の結果報告など様々な事柄が話し合われ運営に活かされている。参加者を通じ、ボランティア団体の訪問が実現したり、地域の防災計画に盛り込んでもらう話も進んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情受付体制が整えられ、御意見箱も設置されている。運営推進会議に利用者、家族が参加し意見を出せる場となっている。また、毎月ユニットごとに発行の新聞が家族に送られ、面会時や手紙、電話でもホーム、利用者の様子を伝えるなど、家族から意見・要望が出しやすい雰囲気作りを努めている。意見・要望が出されることは少ないが、出された事柄についてはすぐに対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の公民館の作品展示会に利用者の作品を出品したり、地元の祭に参加するなど、地域の行事に参加している。また、ボランティア団体が踊りや大正琴の演奏などで訪問したり、定期的な中学生の訪問もある。近所の方とは野菜を持ってきてもらうなどの付き合いがある。運営推進会議に区長、民生委員、隣家の方が出席していることから、地域との交流、連携が広がってきている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、地域社会の中でその人らしい生活を送ることができる支援を目指すという運営理念を掲げ、取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関を入った正面に運営理念が大きく書かれ、日々職員の目に触れるようになっており、管理者、職員に浸透している。また、職員の話し合いで、その理念をさらに具体化した目標も掲げられている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	理念について、家族には入居時に伝えると共に、目に触れやすいよう玄関に大きく掲示している。地域の方には、理念等書いたものを回覧してもらったことがあるほか、運営推進会議も理念を伝える重要な場となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館の作品展覧会に利用者の貼り絵を出品したり、地元の祭に参加するなど、地域の行事への参加を行なっている。また、ボランティア団体が踊りや大正琴の演奏などで訪問したり、定期的な中学生の訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、その評価結果については職員に周知され、改善課題とされている。今回の自己評価は管理者、ユニットのチーフにより作成された。		自己評価については、職員全員で取り組み、振り返りや見直しの機会とされることを望みたい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の重要性を理解し、年間計画を立て隔月で開催している。ホームの状況等の報告など様々な事柄が話し合われ、サービス向上につなげている。また、会議への参加者を通じて、地域にホームを理解してもらったり、地域の行事への参加など、地域との交流のきっかけの場にもなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携は多いが、市の担当者との連携は少ない。毎月、南魚沼市が主催するサービス事業者連絡会で市の職員と出席しているが、ホームの運営等に関して積極的な情報交換を行うまでには至っていない。		ホームや利用者の課題解決のためには市の理解、支援を必要とする事も多いと思われる。市の担当者に実情を積極的に伝え、協働関係を築いていかれることを期待したい。
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、ホーム会議等で虐待について周知を図り、暴行や暴言、放置などの虐待が起こらないよう職員に指導している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事などホームの様子を伝える新聞をユニットごとに毎月発行している。利用者一人ひとりに担当職員が決められており、担当職員から家族に不定期ではあるが手紙を出している。また、面会時にも利用者の状況を伝えるよう努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者、解決責任者を決め、御意見箱を設置し、外部の苦情受付機関も明示するなど、苦情受付体制が整えられている。運営推進会議に利用者、家族が参加し意見を表せる場となっている。意見、要望が出されることは少ないが、出された意見はホームの運営に反映するよう努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行われるホーム会議では職員から積極的に意見が出され、ホームの運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動による弊害を認識しており、これまで職員の異動は行われていない。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しも適宜行われている	各種介護マニュアルや緊急時の対応マニュアルが整備され、すぐに見られるようになっている。特に緊急時のマニュアルは事務室に見やすく掲示されている。見直しも適宜行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員が年に1回は外部の研修に参加できるよう配慮されており、ホーム会議で研修報告が行なわれ他の職員に伝えられている。		今後は、それぞれの職員の立場、経験や習熟度に応じた段階的な研修の機会を計画的に設けていくことを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区の17のグループホームの職員が集まる連絡会があり、2～3ヶ月に1回程度、勉強会や情報交換を行っており、課題の解決やサービスの質の向上などに役立っている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間のコミュニケーションはとれており、悩みなどを相談できる雰囲気はあるが、管理者まではその悩みが上がってこないことも多い。地域の17のグループホームが集まる連絡会への参加はストレスの解消の場ともなっている。職員が休憩できる部屋がホームの3階部分に確保されている。		職員のストレス軽減について、組織的、継続的な取り組みを検討することを望みたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの利用前には職員が必ず家庭などを訪問し本人に会っている。また、利用前に本人、家族に来てもらい、宿泊することもできるようにしている。利用開始は本人、家族の意向で決められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑での野菜作りやちまき作りなど、利用者から教えてもらうことが多く、食事の準備や片付け等の家事も利用者で行っている。また、利用者や職員との会話が頻りに交わされ、喜怒哀楽をともにしている様子が伺えた。		
13 - 2	28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族にホームの様子を伝える新聞を発行したり、担当職員が家族に手紙を送るなど、本人の情報を伝え、家族と共に本人を支えていくよう努めている。		他県など遠方においてなかなかホームへ訪問できない家族ともより密な関係作りが進むよう、今後も努力することを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「望みかなえ札」を作り、利用者に希望を書いてもらい、職員がそれを行なえる努力をするなど、利用者の思いや希望を日常の会話や行動等から把握し、できるだけそれを尊重し、実現できるよう努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に職員が自宅を訪問したり、アセスメントを行う中で、これまでの暮らし方、生活歴やサービス利用の経過などを把握している。利用後も本人、家族からそれらの情報を得るようにし、できるだけその人らしい生活が送れるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、細かなアセスメントを行ない介護計画が作成されているが、本人、家族、関係者とアイデアを出し話し合うところまでは行なわれていない。また、介護計画が身体的ケアに重点が置かれ、地域でその人らしく暮らし続けるための支援といった視点が不足している。		本人、家族、関係者との話し合いがさらに行なわれ、アセスメントで得られたその人のこれまでの地域での暮らしぶりの情報を活かして、これからも地域でその人らしいより良い生活が送れるような介護計画を作成することに期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に記載された期間に応じて見直しが行なわれ、利用者の状態変化等に応じて、ホーム会議で適宜の見直しも行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の付き添いが無理な場合は、通院や理美容院の付き添いを行ったり、買い物など急な利用者の個別の希望にもできるだけ応えるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切に、入居前からのかかりつけ医に引き続き主治医となってもらうことが多い。基本的に受診は家族にお願いしているが、難しい場合は、職員が付き添ったり、往診をお願いするなど、個々のケースに応じた対応を行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の利用者を十分に支えるホームの体制が整っていないため、入居時、本人や家族にもホームの体制について説明している。重度化した場合や医療行為が優先されホームでの支援が難しくなった場合は、本人・家族が納得の行く退居先にスムーズに移れるよう支援していくことも、本人・家族に伝えられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄への言葉かけや薬の塗布など、利用者の誇りやプライバシーに配慮され行なわれている。契約書に秘密保持が明記され、個人の記録は外部の人の目に触れないよう職員室にきちんと保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に散歩に出かけたり、買い物や整形外科への通院などの希望があればできるだけその日のうちに行けるよう配慮している。日中の職員を多く配置し、利用者の希望にそえるようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、季節感のある献立作りを心がけ、毎日の食材の買出しから調理、盛り付け、配膳、後片付けを利用者と一緒に行なっている。食事は職員一人が利用者との会話を楽しみながら一緒にとり、もう一人の職員は台所の片付けなどを行なっている。		できれば勤務している二人の職員が利用者と共に食事をとれるような体制づくりを望みたい。
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗のある利用者については排泄チェックが行なわれ、排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの自然な排泄ができるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は一応決められているが、希望があれば毎日でも入浴できる。夕食後の入浴は行なわれていないが、午前、午後に入浴でき、入浴の長さも比較的自由である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの状況を見極め、自分の部屋や共有空間の掃除、食事の準備などの家事に参加してもらい、感謝の気持ちを伝えている。また、畑仕事や裁縫、書道、歌、カラオケなど、これまでの楽しみが継続できるよう支援している。気晴らしのドライブもよく行なわれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は自由に外に出られるようになっており、職員が付き添っての散歩だけではなく、安全なコースを数人の利用者だけで出かける散歩も日常的に行なわれている。個人的な買い物などの外出希望にも可能な限り応えるようにしている。花見や外食などの外出行事もユニットごとに行なわれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束による弊害を理解しており、身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	できるだけ利用者の自由が保障されるよう努めており、居室には鍵はかけず、日中は玄関にも鍵はかけていない。玄関は開閉するとチャイムが鳴るようになっているが、必要のないときはチャイムのスイッチは切られている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護や事故防止のためのマニュアルが整備されており、また、利用者の状況を念頭に置き、事故が起こらないよう配慮している。事故等あった場合は、事故報告・ヒヤリハット報告としてまとめられ、全職員に周知され、再発防止に努めている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	職員は、消防署の協力を得て救急法の講習を受けている。また、緊急時の対応マニュアルが整備され、特に重要な部分は職員室の見やすい場所に掲示されており、職員はケガ等の初期対応や手当を行なうことができる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	消防署の協力を得て、年2回、避難訓練、消火訓練、通報訓練等を実施している。現在、地域との協力体制はできていないが、これから地域の防災計画ができるようになっており、その計画の中に取り入れてもらえるよう話を進めている。		今後、地域の協力が得られるような体制作りができることに期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事の摂取量や水分摂取量がおおまかに把握されている。食の細かい利用者など注意の必要な人については摂取量を記録し対応している。お茶は常に用意され自由に飲めるようになっている。以前はカロリー計算をし、献立作りを行っていたが、現在は、かつてのメニューを参考におおまかに栄養バランスが把握されている。市の栄養士にアドバイスをもらえるようお願いしているが実現できていない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な音や光はなく、きれいに整頓、掃除されている。利用者が集う場所には椅子、テーブルの他にソファが置かれ、テレビや雑誌、ホームでこれまで撮った写真を見ることができ、また、畳の空間もあり、冬にはこたつが用意されて居心地良く過ごせる場所になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込まれるよう家族に働きかけており、今まで使っていた家具や家族の写真などが置かれた居室もあるが、家具や装飾が少ない居室もある。		利用者が安心して居心地良く過ごせるよう使いなれた馴染みの物を置くなど、本人の意向を確認しながらその人らしい居室となるようさらなる取り組みを望みたい。